

2 タマネギ移植機の開発の取り組み

タマネギ移植機の開発・改良は「タマネギ移植機緊急開発・改良事業〔地域特産農作物用機械開発促進事業（国庫）〕：

実施している。事業実施は、農機メーカーに移植機
械の開発・改良委託を行い、次に示す開発目標にあ
った機械の開発を行うことにしている。

1 移植機開発目標

高性能・小型・軽量で、操作性が簡便なこと。淡
路地域のは場・植栽条件への適応性が高く、生産物
の高い収量と品質の確保ができること。低価格な経
済性の高い移植機械をめざす。

2 具備すべき機能・要件

- ① 作業能率は10a当たりの植付が7時間以内で
でき、播種から育苗までの作業の大幅な時間短縮が
できる。
- ② 形状は小型・軽量で軽トラックに積載できる。
- ③ 操作性は女性・高齢者でも、1人で簡便に操
作できる。
- ④ は場適応性は生育不良を招く畝の鎮圧等が発生
せず、かつ安定した植付走行ができる。
- ⑤ 植栽適応性は淡路地域の条間・株間等の植栽様
式に適応する。
- ⑥ 生産物の状況は移植後の生育が収穫まで安定し、
高い収量と品質の確保ができる。（植付時の機械
的欠株率は5%以内にする。）
- ⑦ 育苗法は移植苗の生産及び供給・運搬が安定的
かつ効率的に行える技術方式の確保ができる。
- ⑧ 本体価格は1,500千円前後又はそれ以内の価格
で供給でき、育苗関連機器及び資材等への投資額
も低い。
- ⑨ 移植機械としての総合的な均衡性を有する。

3 事業推進体制

事業推進体制は、図に示すように、県関係機関及
び生物系特定産業技術研究推進機構を構成員とする
「タマネギ移植機緊急開発・改良推進会議」を推
進母体として、①農機メーカーへの技術指導、②淡
路地域の農協・関係市町・生産組合等の地元と連携
して事業の推進を図ることにしている。

藤本 喜龍（農産園芸課）

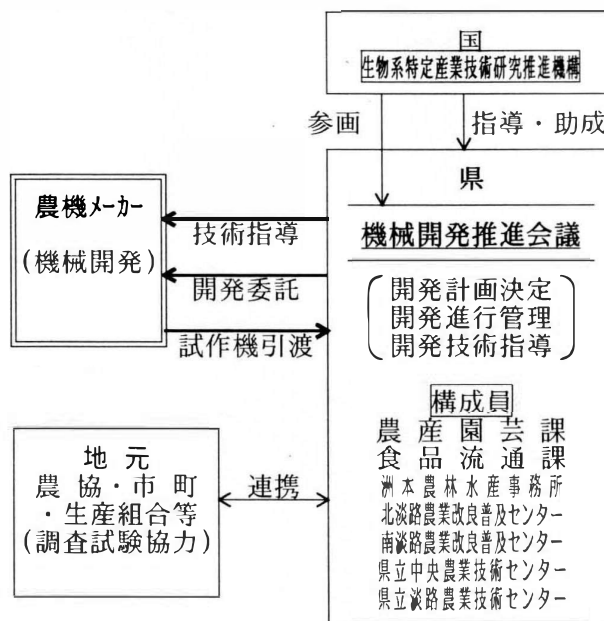


図 事業推進体制